



# グリーンフィールド®

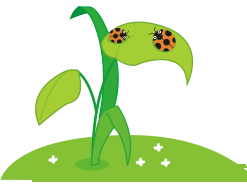
## ゴルフ場管理の省力化



関東ゴルフ連盟グリーン研究講習会

株式会社ニチノー緑化





# グリーンフィールド®とは？

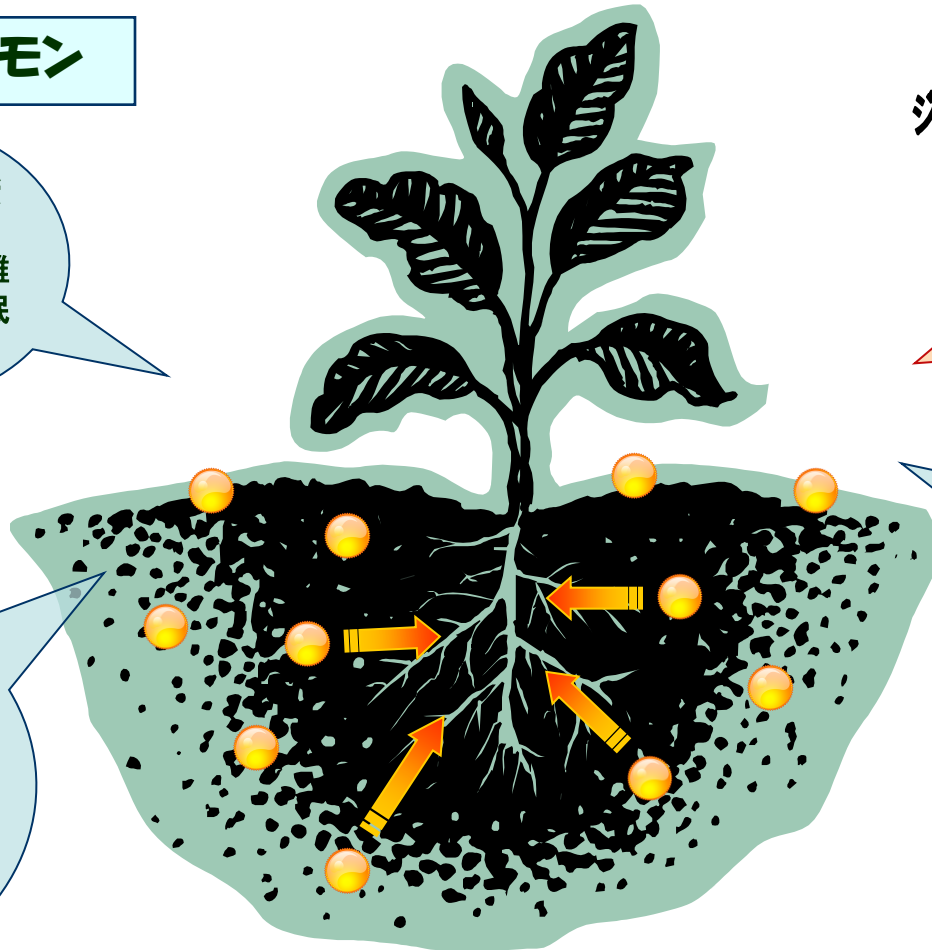
ジベレリンの生合成を阻害することで、植物の成長を抑制させる  
土壌処理型の「植物成長調節剤」で、根から吸われます。

## 様々な植物ホルモン

**アブシジン酸**  
生長抑制型  
花や果実の脱離  
種子や芽の休眠  
作用

**オーキシ  
ン**  
伸長促進  
発根促進

**フラシステロイド**  
伸長成長、種子の  
発芽促進、ストレス耐性  
誘導等、オーキシン、  
サイトカイニン、  
ジベレリン等と関連  
して効果発現



グリーンフィールドは  
ジベレリンに作用します。

**ジベレリン**  
成長促進作用  
ブドウの無種子化  
熟期促進  
種子や芽の休眠打  
破

**サイトカイニン**  
細胞分裂促進  
細胞拡大  
植物の老化抑制

**エチレン**  
果実成熟の促進  
発根促進  
根毛の成長促進  
花芽形成促進



**グリーンフィールド  
の  
効果発現の様子**



**グリーンフィールド処理**



**無処理**



# グリーンフィールド水和剤の登録内容

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルプロリトールを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
日本芝	草丈の伸長抑制	0.2～0.4g/m <sup>2</sup>	250～300ml/m <sup>2</sup>	芝生育初期～芝生育盛期	2回以内	全面均一散布	6回以内 (粒剤は2回以内)
		0.025～0.075g/m <sup>2</sup>	100～300ml/m <sup>2</sup>		6回以内		
西洋芝 (ベントグラス)		0.1～0.2g/m <sup>2</sup>	250～300ml/m <sup>2</sup>		2回以内		8回以内 (粒剤は2回以内)
		0.0125～0.05g/m <sup>2</sup>	100～300ml/m <sup>2</sup>		8回以内		
西洋芝 (バーミュダグラス、ブルーグラス)	スズメカビラの密度低減	0.025～0.05g/m <sup>2</sup>		芝生育期 (スズメカビラ生育期)			
	草丈の伸長抑制	0.1～0.2g/m <sup>2</sup>		250～300ml/m <sup>2</sup>	芝生育初期～芝生育盛期		2回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	m <sup>2</sup> 当り使用量		総使用回数	使用方法
					薬量	希釈水量		
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等	一年生雑草及び多年生広葉雑草	雑草の伸長抑制	雑草発生前～発生始期	0.4～0.8g/m <sup>2</sup>	100～300ml/m <sup>2</sup>	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布



# グリーンフィールド粒剤の登録内容

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルプリミドールを含む農薬の総使用回数
日本芝	草丈の伸長抑制	10～20g/m <sup>2</sup>	生育初期～生育盛期	2回以内	全面均一散布	6回以内 (粒剤は2回以内)
西洋芝(バーミューダグラス、ベントグラス、ブルーグラス)		5～10g/m <sup>2</sup>				2回以内
樹木類	新梢伸長抑制による剪定軽減	10～20g/m <sup>2</sup>	萌芽2週間前 又は新梢伸長開始2週間前	1回	全面土壌混和	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	フルプリミドールを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等	一年生雑草 多年生広葉雑草	雑草の伸長抑制	雑草発生前～発生始期	20～40g/m <sup>2</sup>	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布	3回以内





# ティー後方の植込みから出る雑草(チガヤ)の抑制

グリーンフィールド処理

無処理

2006年2月9日 粒剤20g/m<sup>2</sup>処理  
2006年8月22日 (6.5ヵ月後) の状況





# 駐車場の植込みの剪定軽減 & 美観維持



無処理



グリーンフィールド処理区





# 樹林地帯・法面ラフなどの刈込軽減

メヒシバ・エノコログサ等のイネ科雑草主体

2006年2月9日 水和剤0.4g/m<sup>2</sup>処理  
2006年7月26日 (5.5ヵ月後) の状況





# スプリンクラーヘッドの周りの伸長抑制



**2006年3月27日**





# グリーンフィールドを利用したエッジング処理







# グリーンフィールドの効果のある雑草

- キク科：ハキダメギク、ハハコグサ、ヨモギ、オオキンケイギク、ホオコグサ、  
アメリカセンダングサ、オニノゲシ、ジシバリ、オニタビラコ、ノボロギク
- イネ科：スズメノカタビラ、カラスムギ、ネズミムギ、イチギツナギ、カゼクサ、  
スズメノヒエ、イネムギ、ギョウギシバ、メヒシバ、アキメヒシバ、エノコログサ
- マメ科：シロツメクサ、ヤハズソウ、カラスノエンドウ、クサフジ、ヤマハギ、ツルマメ
- タデ科：ヒメスイバ、エゾノギシギシ、ミチヤナギ、イヌタデ、イシミカワ
- ナデシコ科：ハコベ、オランダミミナグサ、ツメクサ
- ゴマノハグサ科：タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ
- カヤツリグサ科：カヤツリグサ、ヒメクグ
- シソ科：ナギナタコウジユ、シソ
- セリ科：チドメグサ
- ヒユ科：イヌビユ
- アブラナ科：ナスナ
- ツユクサ科：ツユクサ
- ヒルガオ科：コヒルガオ
- オオバコ科：オオバコ
- トウダイグサ科：コニシキソウ
- カタバミ科：ムラサキカタバミ
- イヌグサ科：クサイ
- サクラソウ科：コナスビ





# 草種別グリーンフィールドの効果発現

## ヨモギ

キク科多年生

*Artemisia princeps* Pampan.



グリーンフィールド水和剤 0.8g/m<sup>2</sup>



無処理

処理: 2007年3月15日

写真: 2007年5月





# 草種別グリーンフィールドの効果発現

## カラスノエンドウ

マメ科越年生

*Vicia angustifolia* L.



グリーンフィールド水和剤 0.8g/m<sup>2</sup>

処理: 2007年3月15日

写真: 2007年5月

2007.05.14

無処理







# 草種別グリーンフィールドの効果発現

## ノゲシ

キク科越年生

*Sonchus oleraceus* L.



**処理: 2007年3月15日**

**写真: 2007年5月**





# グリーンフィールドド水和剤の登録内容

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルプリミドールを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
日本芝	草丈の伸長抑制	0.2～ 0.4g/m <sup>2</sup>	250～ 300ml/m <sup>2</sup>	芝生育初期～ 芝生育盛期	2回以内	全面均一散布	6回以内 (粒剤は2回以内)
		0.025～ 0.075g/m <sup>2</sup>	100～ 300ml/m <sup>2</sup>		6回以内		
西洋芝 (ベントグラス)	草丈の伸長抑制	0.1～ 0.2g/m <sup>2</sup>	250～ 300ml/m <sup>2</sup>	芝生育初期～ 芝生育盛期	2回以内	全面均一散布	8回以内 (粒剤は2回以内)
		0.0125～ 0.05g/m <sup>2</sup>	100～ 300ml/m <sup>2</sup>		8回以内		
	スズメカビラの密度低減	0.025～ 0.05g/m <sup>2</sup>	芝生育期 (スズメカビラ生育期)				
西洋芝 (バーミューダグラス、 ブルーグラス)	草丈の伸長抑制	0.1～ 0.2g/m <sup>2</sup>	250～ 300ml/m <sup>2</sup>	芝生育初期～ 芝生育盛期		全面均一散布	2回以内



: マルチアプリケーション向け登録内容

本処理方法をご利用の際には、使用回数と薬量にご注意ください。










# グリーンのスズメノカタビラの密度低減

## MAP マルチアプリケーションプログラム Multi-Application Program

春から秋に掛けて、定期的に少量のグリーンフィールド水和剤を散布することで、徐々にスズメノカタビラの密度を低減させる手法。



1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
												





# マルチアプリケーションプログラム方法

## 散布ルール&注意事項

1.  
春期、芝生育が  
活発になる頃に  
散布開始

2.  
グリーンフィールド  
0.025~0.05g/m<sup>2</sup>

3.  
3~4週間ごとに  
夏期も連用処理


4.  
冬期休眠  
もしくは  
生育が鈍る頃  
の4週間までに散布  
を終了する

## <マルチアプリケーションのメリット>

- 刈込回数の軽減
- 一日のグリーンクオリティが一定に！
- 感受性差を利用したスズメノカタビラの抑制
- スズメノカタビラを目立たなくするだけでなく、徐々に衰退させる





A top-down photograph of a grassy field, split vertically by a white line. The left side shows grass that has been treated with 'Green Field' (グリーンフィールド), appearing as a dense, uniform carpet of green. The right side shows grass that has not been treated (無処理), appearing slightly less uniform and with some visible yellowish-brown patches. At the bottom of each side is a dark green rectangular box with white text.

グリーンフィールド処理

無処理





# スズメノカタビラの抑制効果（委託試験）

平成23年度委託試験結果

0.025g/m<sup>2</sup> (300ml/m<sup>2</sup>)、0.05g/m<sup>2</sup> (100ml/m<sup>2</sup>)  
にて、やや濃緑化したものの、程度は微少であり、実用上問題ない程度であった。

試験機関	東日本グリーン研究所
試験圃場	山梨県Bゴルフ場
芝品種名	ペンクロスベントグラス
試験規模	1区1m <sup>2</sup> ×2反復
処理日	平成23年4月4日

試験区	使用薬量 (g/m <sup>2</sup> )	散布水量 (ml/m <sup>2</sup> )	スズメノカタビラ 本数	抑制率 (%)	薬害
無処理	—		26.5	100%	
グリーンフィールド 水和剤	0.0125g	100ml	22.0	83.0%	—
	0.0125g	300ml	21.0	79.2%	—
	0.025g	100ml	19.5	73.6%	—
	0.025g	300ml	19.0	71.7%	±
	<b>0.05g</b>	<b>100ml</b>	<b>17.0</b>	<b>64.2%</b>	<b>±</b>





**ご静聴ありがとうございました。**



ご質問、ご相談などありましたら、出来る限りお答え申し上げます。

もしくは、下記までお問い合わせください。

**株式会社ニチノ一緑化**

**〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号 6階**

**TEL:03-3808-2281 FAX:03-3808-2360**

